

緑の風

JR東労組
NEWS

JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2023年2月21日 No.110

山貨事故から24年！ 今こそ安全レベルの低下を直視し、 安全哲学の再確立に向けて、 議論を巻き起こそう！

夜間作業で作業員5名がお亡くなりとなった、山貨事故から24年を迎えました。2023年2月20日、白新線黒磯駅構内の踏切で退避遅延が起きるなど、未だに事故・事象の連鎖は止まっています。

自分と仲間の「命」を守るために、過去の痛ましい教訓を活かし、「責任追及から原因究明」の視点で職場議論を、今こそおこなおうではありませんか！

山貨事故（山手貨物線作業員触車死亡事故）とは？

《発生日時》

1999. 2. 21 00:14

《発生場所》

山手貨物線 大崎～恵比寿間

《発生状況》

工事作業員8名が準備作業を行うため、線路内に立ち入り、トロッコにより資材運搬を行っていたところに、臨時列車が突入した。

《現場状況》

作業員5名が触車し、死亡した。

《列車影響》

249分停車後、運転再開

《原因》

作業責任者が、終列車が通過した以降は、当該の臨時列車は運行されないと思いこみ、作業を開始したため、作業員が触車した。

《JR東労組の活動》

緊急対策として、線路内における作業を全面中止とし、安全な作業体制確立に向けた議論を会社とおこなった。その結果、線路近接の作業については、線路閉鎖（作業中現場に絶対列車が進入しないよう、一定の手続きをして行う作業）を基本とする作業体制を確認した。しかし、線路閉鎖による作業は、作業効率からいえば、非効率であるため、関係する組合員から多くの不満の声があがった。これに対して、「作業優先から安全優先を」を掲げ、「命を守ろう」と訴えながら、議論を深めてきた。しかし、すべてうまく行っているわけではなく、未だ仕事優先の風土が見られる現実もあるが、多くの職場で「安全」議論が創られ、安全意識の高揚が図られたのも事実である。

安全なくして労働なし！